

「夢じゃない、夢じゃないんだ！」

～主と共に生きる道の豊かさ～

「その時、ペテロは我に返り、何が起こったのかやっと気づきました。『夢じゃない、夢じゃないんだ。確かに主が天使を遣わし、ヘロデの手から、またユダヤ人たちのたくらみから救い出してくださったのだ。』」

使徒行伝12章11節[リビングバイブル]

夢のようなことが現実には起こることがあります。使徒行伝時代と同じように今も、世界中の多くのクリスチャンたちも多くの奇蹟を体験しています。しかし、普段の私たちの生活の中ではそんな不思議な出来事はあまり起きません。でもそのごく普通の当たり前の生活の真ん中で主の平安と守りを体験していることこそ、最も偉大な奇蹟であると思います。

主の復活という大いなる出来事を体験した弟子たちのその後の人生も、それまでと変わらないようなごくりふれたものであったことでしょう。しかし、そんなありふれた中にあっても、信仰生活を送る中で、主と共に生きて働いておられることを感じることができました。

クリスチャンジャーナリストであるフィリップ・ヤンシー著の「神を信じて何になるのか」の中の13章「恵みの中で成長すること」の中で、ヤンシーは幼子のクリスチャンの二つの特徴について紹介しています。その一つ目は「律法主義」、二つ目は「繁栄の神学」です。クリスチャンがこの信仰でとどまっているなら、神様が体験させたい大いなる恵みを体験できなくなると警告しています。もちろん、この二つの信仰はとても大切であるし、聖書が示す大切に力強い考え方ではありますが、その場所に留まり続けてはならないということです。

「問題のない人生を約束している教会は、講堂が人に埋め尽くされるかもしれません。とりわけ、経済面や健康面を大きく取り上げているときには、そうです。私たちが法外な約束をしたり、実際に聖書が言っていることを曲げて伝えたりすると、ついにはそれらの人々の多くが背を向け、失望し、もしかすると永遠に敵意を抱くことになるでしょう。

皆さんは、霊性が子どもの段階でとどまっている人々の成長を助けるという、細心の注意を要する働きに直面することでしょう。たぶん、一連の明確な規則が安全な形を差し出し、問題のない人生を約束する信仰がアピールされるでしょう。それらは間違いなく魅力的でしょう。しかし、どちらも甘い毒のように重大な危険をはらんでいます。」

使徒たちに与えられた主からのミッションは、神の国の福音に生きることでした。「一粒の麦が地に落ちて死ななければ、それはただ一粒のままである。しかし、もし死んだなら、豊かに実を結ぶようになる」(ヨハネ12:24)。私たちがたとえ小さな働きだとしても、神の国を建て上げるために自らを喜んで主に捧げて行く道を歩んでいきたいと願います！